

「北海道グローバル戦略（2023改訂版・案）」についての意見募集結果

令和5年（2023年）9月19日

「北海道グローバル戦略（2023改訂版・案）」について、道民意見提出手続により、道民の皆様からご意見を募集したところ、1人のべ7件のご意見が寄せられました。

ご意見の要旨及びご意見に対する道の考え方については、次のとおりです。

II 展開方向	
意見の概要	意見に対する道の考え方※
<p>■ 3 展開方向 展開方向II 世界と北海道をつなぐ環境づくり (1) 多文化共生社会の形成 道民側が、数多くの国々の文化や生活習慣を理解するのは無理が大きすぎるので、外国人の側が、日本の文化や生活習慣に合わせられるように啓発と指導に努めるべき。</p>	<p>外国人の方々が地域社会の一員として受け入れられるよう、生活等に必要な日本語能力を身につけることができる学習機会を提供するための総合的な体制づくりを行うなど、道及び市町村、関係機関等が連携を図り、多文化共生社会の形成に向けた取組を推進してまいります。</p> <p style="text-align: right;">B</p>
<p>■ 3 展開方向 展開方向II 世界と北海道をつなぐ環境づくり (1) 多文化共生社会の形成 外国人に生活保護費を支給してはならない。高額医療を日本において、保険適用し格安で受ける目的での入国は拒否すべきである。</p>	<p>生活保護や入国管理は、国の所管であるため、当該戦略でその取扱について記載することは困難です。</p> <p style="text-align: right;">D</p>
<p>■ 3 展開方向 展開方向II 世界と北海道をつなぐ環境づくり (2) 人材・技術を活用した交流・協力の促進 「外国人留学生等の受入促進」とあるが、道内の大学への留学希望者には、中学1年生レベルの日本語の読み書き、ヒアリング、会話の3項目の試験を義務づけるべき。</p>	<p>外国人留学生の受け入れにあたっては、各大学で試験内容等を独自に決めていることから、試験等を義務づけることは困難です。</p> <p style="text-align: right;">D</p>
<p>■ 3 展開方向 展開方向III 世界情勢の変化への機動的で柔軟な対応 (1) 世界を視野に入れた力強い地域経済の確立 「食料安全保障の強化」とあるが、道内の酪農家に乳牛の頭数の削減、道産牛乳の廃棄を押しつけ、海外からのチーズなどの乳製品の輸入を増やし、食料安全保障を弱体化させたのは、農林水産省に追随してきた道庁の側である。スーパーに並んでいるチーズの8割は輸入物ではないか。道産チーズの増産に努めるべき。</p>	<p>生乳の需要が大きく減少したことから、生産者団体は生産抑制に取り組んでいるところですが、道では、消費が伸びているチーズの輸入品から国産品への置換えに向けて、道産チーズの消費拡大プロジェクトや、チーズ製造技術に係る研修会を実施するなど、今後も道産牛乳・乳製品の需要拡大に努めてまいります。</p> <p style="text-align: right;">B</p>

意見の概要	意見に対する道の考え方※
<p>■ 4 北海道と世界各地との交流 ～各国・地域の展開内容～</p> <p>「欧州」と「北米」に、「サケなど道産食品の輸出拡大」とあるが、欧州人はノルウェー産のサケを、北米人はアラスカ産のサケを食べればよい。エネルギー資源の無駄遣いである。</p>	<p>国内の人口が減少する中で、漁業経営の安定につなげるためには、国内外に販路を確保する必要があることから、道では「北海道食の輸出拡大戦略」に基づき、道産水産物の輸出拡大に取り組んでいるところです。欧米では、寿司や天ぷらなどの日本食が浸透しつつあり、ホタテをはじめとした本道の水産物の需要も多いことから、漁業生産者や関係団体のご意見も踏まえ、欧米における道産水産物の輸出拡大に向けた取組を進めておりますので、ご理解くださいますようお願いいたします。</p>
<p>各分野別の重点</p> <p>「食」中、「道産食品の輸出拡大」とあるが、今秋以後に、小麦不足と化学肥料の輸出規制で、世界的な食糧難が予想されているので、道産食品の輸出は、当面現状維持にとどめるべき。北海道には、本州以南の国民への食料安全保障を担う責務がある。</p>	<p>我が国では、少子高齢化が他の国より速いペースで進行しており、国内の食市場は、今後、さらに縮小すると見込まれていることから、道内食関連産業の持続的な発展を図るため、今後とも、道産食品の輸出拡大に努めてまいります。</p> <p>なお、本道が我が国の食料自給率の向上を図り、食料安全保障の強化に最大限寄与できるよう、努めてまいります。</p>
<p>各分野別の重点</p> <p>「食」の「関連する取組イメージ」中、「どさんこプラザ海外店」とあるが、首都圏でのアンテナショップ出店の負担が重く撤退している県も多い中、海外のアンテナショップは見合うだけの成果を得られていないと思われるので、経費削減のため3店舗ともに閉鎖すべき。</p>	<p>少子高齢化が進行している我が国の食市場が、今後、さらに縮小すると見込まれる中、道内事業者が販路拡大を図っていくためには、成長する海外マーケットを獲得することが必要であることから、海外における道産食品のPR及び販路拡大を図るため、今後も海外アンテナショップの活用や支援機能の強化に努めてまいります。</p> <p>なお、施策の推進にあたっては、ご意見のような懸念の声があることにも留意してまいります。</p>

※「意見に対する道の考え方」のA～Eの区分は次のとおりです。

A	意見を受けて案を修正したもの
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	案を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの
D	案に取り入れなかったもの
E	案の内容についての質問等

問い合わせ先
総合政策部国際局国際課国際企画係
電話：011-204-5343
経済部経済企画局国際経済課国際経済係
電話：011-204-5339